

タイトル：ノア、その選別は甘いか苦いか？—約束の虹を「方舟」から見上げて

渡辺 おさむ

以下本文：

わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。「創世記 9 章 13 節」

2020 年は、世界にとって、私たちにとって大変な一年となりました。それまで積み上げ、当たり前と思ってきたことが、そうでなかったことに気づかされる…未曾有のコロナウイルスが感染拡大を続ける今現在もテクノロジーは進化しているのに、日常では、人類がかつて経験したことのない挑戦が次々と立ちはだかります。

しかしコロナウイルスが、今の世の中のあらゆる「生きづらさ」の根源のすべてでしょうか。それはきっかけに過ぎないのではないのでしょうか。急速に加速する価値観の多様化は、ある面では人類を自由にしながら、同時に束縛してしまっているような気がします。

展覧会のタイトルは『ノアの方舟』です。旧約聖書『創世記』6 章から 9 章に登場する、有名な物語です。地上に溢れかえる人間の墮落に怒った主が、これを滅ぼすために大洪水を起こします

が、篤信家であったノアは、お告げに従い方舟を作って、善なる家族と動物の番（つがい）だけを選び方舟に乗せて難局を脱します。

このノアの方舟、どこかへと運んでくれる呑気な「舟」ではありません。神の怒りからエスケープするための舟であり、厳しい「選別の舟」なのです。しかし誰を選び連れていくか、この時のノアに迷いはなかったはずです。

しかし今は多様性の時代です。ある角度から見れば悪に見えるものでも、別の角度では善なのです。逆もまた然り。滑稽な話ですが、多様でなければ、多様性から排除される時代なのです。まだ生まれただて、どう舵取りすべきか誰も分からない、複雑で難解な新時代に、多様であることが通用しない「公平で非情なウイルス」が、大洪水の代わりに世界を覆いつくしています。今の時代であればノアも、方舟に誰を伴うか、大洪水までに決められなかったに違いありません。

今回、この『創世記』からノアの方舟をテーマに、現代社会における“助け舟”のイメージを、フエイクのスイーツやクリームに託しました。おのずと会場そのものが「ノアの方舟」に見立てられます。聖書に登場する動物たち、洪水の終わりと和解を告げる鳩、そしてノアの仕事に真実を見た主が二度と洪水は起こさぬと誓いを立てた契約の「虹」－そういえば、コロナ禍のさなかにも、「虹」を目にする機会が増えました。その「虹」に込められた約束の行方はどうでしょう。それらが、“リアルに甘い、嘘のスイーツ”で象られます。会場を後にするとき、見上げた空にか

かる「虹」の約束は、はたして本物でしょうか。それともフェイクかたちだけなのでしょうか。ご来場いただく皆さまそれぞれの答えが見つかりますように。

渡辺おさむ展「ノアの方舟」

会期：2021年2月10～16日

会場：高島屋横浜店